

平成27年度第2回食育推進会議議事録

- (1) 日 時 平成28年3月22日(火) 19:00~21:00
- (2) 場 所 佐世保市中央保健福祉センター8階 講堂
- (3) 出席者 <委員> 柴田会長 林委員 野々村委員 田中委員 沖島委員 前田委員 谷川委員
山口委員 川崎委員 岡委員 井手委員 土井委員
<事務局> 赤瀬保健福祉部長 濱崎保健所長 湯村健康づくり課長
野中健康づくり課長補佐 内田副主幹 金ヶ江係長 歯科衛生士 志方
管理栄養士 志方 赤木 古賀
- (4) 議 事 ① 「食育に関するアンケート調査」結果報告について
② 「第3次食育推進計画策定」について
③ その他
- (5) 質 疑

【事務局】

開会のことば
部長挨拶
会議成立の報告
資料の確認
情報公開について

【柴田会長】

それでは会議を進行いたします。

まず議事1、「食に関するアンケート調査票」の結果について(速報値)、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

それでは、「食育に関するアンケート調査」の結果について報告いたします。

平成23年度に策定いたしました「第2次佐世保市食育推進計画」の計画期間5ヶ年を経過するというので、今年度、第1回の推進会議の中で委員の皆様にご意見を頂いた「食育に関するアンケート調査」を9月に実施いたしました。

時間も限られている為、まず2次計画の評価に関わる箇所を中心に報告いたします。

《～省略～》

【柴田会長】

どうもありがとうございました。かなり膨大なデータになっております。

それでは、事務局からの説明につきまして、ご質問等ありましたらお願いいたします。

9ページがよくまとまっておりますので、それを見ながら議論を進めていきたいと思っております。平成

22年度と比べて目標値まで達したものは少なかったようです。全体的に改善はしたが、目標値まで達しなかったものが多かったようです。全体としてご意見はないでしょうか。上の方から順にみていきましょう。私が気になっているのは、朝食欠食をしている人が多くなっているのではないのでしょうか。5年前も指摘されたと思います。いかがでしょうか。

【田中委員】

やはり朝食を食べられないのは、家を出る時間まで寝ていて、朝時間がないからだと思います。うちの子供も高校生で、早めに起こして食べさせてはいるのですが、似たような感じです。周りの子供達も夜遅くまで、明け方近くまでゲームをしているようです。小学校2年生、5年生でも夜塾に行って、夕食は家族と食べられないことが多いようです。塾が終わって9時か10時頃家に帰ってきて、それから夕食を食べてお風呂に入り、ゲームをしています。学校から帰って朝起きるまで、ゲームなどに時間を費やしています。大人も悪いのですが、食事は二の次のようです。このような状態が改善されないと、子どもが朝食を食べる事は難しいと思います。

【事務局】

今回のアンケートでは、朝食を食べない理由に関しても、アンケート項目の中に加えております。30, 31ページをご覧ください。30ページが一般の方、31ページに5歳児、小2、小5、中2の結果を載せております。今、発言していただいたように、「朝食食べる時間がないから」と、「食欲がないから」という回答が、一般も小児も回答が多い結果となっております。

【柴田会長】

経済的な理由ではなく、起きられない、時間がないからなど、個人に対して指導をしなければいけないような理由が多いようです。他の項目はいかがですか。

【野々村委員】

朝食欠食についてですが、国民健康・栄養調査では、お菓子・果物だけの内容は欠食として扱っていますが、今回の調査の欠食はどういう項目を食べると欠食なのでしょう。全く食べなければ欠食なのか、何かしら口にしたら摂取したことになるのか、それでもちょっと違ってくると思います。また、夕食の時間帯がずれ込んでいる調査があったと思いますが、共働きの家庭が多くなっていて、夕食の時間が遅くなってきていると思います。夕食前に空腹になって、何かちょっとつまんで、夕食の時間にしっかりとした食事が取れず、また夕食後にお腹がすくという悪循環を繰り返している方がいると思います。そのようなところを詳しく調べると、朝食に対して何か見えてくるのではないのでしょうか。小学校、中学校は栄養教諭が配置されているので、課題として取り上げられますが、大人は夜遅くまで居酒屋で食べたりしていて、大人への教育も実施していかないといけないと思います。ただ朝食の欠食理由のどのような内容が多い、少ないだけの統計ではいけないのではないのでしょうか。

【事務局】

まず朝食の内容についてですが、資料3の一番後ろの方に、それぞれの対象者のアンケート用紙を印刷したものを載せております。一般の5ページがちょうど朝食のお尋ねに関する項目を載せており

ます。国民健康・栄養調査と同じように、菓子、果物、乳製品、嗜好飲料などの食品のみを食べた場合や、錠剤などによる栄養素の補給、栄養ドリンク剤のみの場合は、朝食に含まれないようにしております。食事という形で食べたかどうかの有無をお尋ねしております。

夕食後の間食頻度等についても、今回調査をしております、70 ページ辺りが夕食後の間食の頻度に関するグラフを載せております。71 ページに朝食摂取頻度別の夕食後の間食頻度のグラフを載せております。夕食後の間食頻度を「ほとんど毎日」と答えた人の割合は、朝食を「全く食べない」と答えた群で高く、41.0%であったという結果が出ております。やはり、夕食後の間食と朝食摂取との関連性は強いのかなと感じております。

【野々村委員】

よく、「規則正しく」という言葉がでてきますが、規則正しい生活ができず、生活リズムが乱れてきているのかなと思います。夕食後の間食頻度が高くなり、朝食を食べないことが生活リズムの悪循環になっていると思います。日光を浴びることの大切さなどを伝えることが大切だと思います。これらから見えてくる問題に対する対処が大切だと思います。規則正しい生活が正しい理由、早寝早起きの大切さを伝えていくことが大切だと思います。

【柴田会長】

やはり親に対する教育が大切だということですね。他には？

【井手委員】

朝食の件なのですが、朝食を食べない理由に「太りたくないから」とありますが、夕食後の間食が一番太りやすいですね。「食欲がないから」という理由もありますが、朝食をしなくても、牛乳や何か飲み物だけでも、親は用意してもらえないのかなと思います。5 歳児の親に対して朝食を食べさせない理由に「朝食を作るのが面倒だから」という回答もありますが、子どもを大切にすれば何かしら口に入れさせたい、食べさせたいとは思わないのでしょうか。朝食を食べなくても、子どもはお昼までお腹が持つのかなと思います。

【柴田会長】

朝は何か食べさせてあげたいというご意見ですが、何かありませんでしょうか。

時間もありませんので、他のご意見は何かないでしょうか。

◎がついているのは歯科の項目ですね。歯科健診を定期的に受診する市民の割合の増加や噛ミング 30 の未就学児は目標値を達成できております。これに何かご意見はないでしょうか。

【川崎委員】

やはり、いろいろな方々の努力から、この結果が出てきているのではないのでしょうか。

1 つ心配なのが、小児の健診の件で、10 か月児対象の健診か歯科相談が行われているものが次年度からなくなるということを知りました。先生はご存知ではないのでしょうか。子どもが生まれてからの 4 か月児健診は、受診率が高いと聞いております。そして佐世保市では独自に 10 か月児歯科育児相談を行っていたのが次年度からなくなるか、変更があると聞いております。子どもに対しての指導

が、健診がなくなることで変わってくるのではと思います。この数字を見ておかなければと思います。

【事務局】

歯科衛生士です。10 か月は 10 か月児歯科育児相談という形で、健診ではないのですが、歯科衛生士が仕上げ磨きや食事の噛み方などをお伝えしております。28 年度にしましては、引き続き行うようにしています。ただ、今まで問診票を渡していたのですが、今年度からはハガキ形式でご案内をし、歯科だけでなく、栄養や保育のこと等、質問があれば記入して持ってきてもらうようにしております。特に困ったことがない方は来所されてないということにはなりますので、受診率が下がってきていることは事実です。28 年度も引き続き同じ方法で行っていきたいと考えております。

【柴田会長】

よろしかったですかね。他にご意見ある方いらっしゃいませんか。

【川崎委員】

×がついている項目がなぜなのかということをよく見なければいけないと思います。いろんな意識ということでは、ボランティアやイベントに参加した市民の割合などがあると思います。それと食事バランスガイドがあると思います。食事バランスガイドができた時は、飲食店に行った時などにバランスガイドが置いてあるなと気にしながら見ていました。最近ちょっと気にせずにご飯を食べているなど感じています。始まった時は、三角すいなどの、バランスガイドを啓発するものがテーブルの上に置いてあったと思うのですが、最近はどうなのでしょう。できてすぐの方が市民に PR ができていたように感じます。時間が経ってからは、逆に認知度が下がっていると感じます。以前より PR ができていないのかなと感じます。

【柴田会長】

何か食事バランスガイドについてご意見ありませんか。

【林委員】

スーパー等買い物に行くと、店頭や野菜売りの近くに食事バランスガイドの絵が貼ってあったりしましたが、最近減ってきているように感じます。みなさん、飲食店で外食されたときに見かけますか？健康づくり応援の店に貼ってあるのは、時々見かけるかなと思いますが、飲食店の中に貼ってあるのは見ないようになった気がします。露出が減ってきているのかなと感じます。

【柴田会長】

私は結構外食をするのですが、あまり見かけないですね。市のホームページの「健康」から入っていくか、厚生労働省からリンクすれば、バランスガイドを見ることができます。

最後の 14 番の食文化の継承で、お箸の持ち方ですが、大分数値は上がってきたように見えますが、以前はアンケートの取り方が 8 項目の絵を見せて、どの持ち方が一番いいですかというお尋ねの仕方でした。選択項目の中に紛らわしいものがあったこともあり、正解が少なかったように思います。

現状はこういったところ、でいろいろとしなければいけないことがたくさんあるなど感じた次第で

す。

それでは時間の都合もありますので、議事2「第3次食育推進計画策定」については、進みたいと思います。事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

それでは、第3次食育推進計画策定について説明いたします。

《国の第3次食育推進計画策定について説明。【省略】》

《「第三次長崎県食育推進計画」について説明。【省略】》

《今後の第3次佐世保市食育推進計画策定に関するスケジュールを説明。【省略】》

議事2に関する事務局の説明は以上です。

【柴田会長】

ありがとうございました。

内容が多かったので確認しますと、まず国の第3次食育推進基本計画の説明、そして長崎県の第3次食育推進計画の説明、今後の検討スケジュールについて説明をいただきました。

そして、国の第3次食育推進基本計画、資料2-②の新規項目3項目を今から皆さんで検討していただきたいということでした。

1つずつ見ていきたいと思います。まず、国は「③地域等で共食したいと思う人が共食する割合を増やす」という目標設定しておりますが、これを佐世保市の3次計画にどう反映させるかということですが、何かご意見がある方はいらっしゃいませんか。

【野々村委員】

この地域で共食をするというのは、年齢はあまりこだわらなくてもいいのでしょうか？

今、私があるところに関わっているのですが、高齢者の方を中心に、公民館で月1回程度集まり、栄養に関する話と調理実習を交互に実施しています。それだけでは集まる楽しみがないので、運動を行ったりもしています。地域の方に、「自分達の手で健康を守りましょう」と考えている方がいらっしゃるのそのような事を行っています。総合的には、共食をすることによって、閉じこもりを防ぎ、コミュニケーションが高まり、そして楽しい、ということに繋がっているようです。100人の方にアンケートを取ってみました。国が示しているように、共食することによって栄養を取らせたいというよりは、高齢者が明るくなってくる、家から出るために足を使うことによって運動ができたり、友達ができたりするなど、いろいろな効果ができてくると思います。高知県から発信された厚生労働省の施策、100歳イキイキ運動は、まさに目指しているところがそれなのではと思います。来年度も続けていくよう予定しております。一緒に食べることで楽しく、食事を美味しく食べる事ができます。足腰が痛いので短時間でできて、しかも年金生活なので安くできて、道具も使わずにさっとできるバランスが取れる食事を伝え、実践できるよう取り組んでいます。食事+付加価値が出てくるのでは

ないかと感じます。地域の公民館で、食生活改善推進員などのボランティアの方を通じて、何かをさせることができるのではないのでしょうか。私の目的は高齢者だけではなく、地域の中の小学生や保護者の方々も集めて、実施するようにしていますが、どうしても高齢者中心になっています。それが自立できる高齢者を維持していけるのではないかと思います。生活習慣病予防、介護予防につながっていくのではと取り組んでいます。

【柴田会長】

貴重なご意見ありがとうございました。この事に関しまして、国は、高齢者に特化したものを考えているのですか？

【事務局】

しっかりと明言はされていないようですが、今、言われたような高齢者が地域で共食を行うことによってコミュニケーションを取ることができ、楽しく食べていただけるような内容が、中心の考え方のように感じました。目標案としても、「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査報告」を現時点では考えられているようです。

今までは家族で一緒に食事をするのみ目標案として挙げられていましたが、今回から地域やコミュニティ等活用した形での共食も、目標として取り上げられています。

【柴田会長】

アンケートでは家族に対しての共食を尋ねられていましたが、今回、新たに別の共食の目標が出されたということですね。何かご意見はありますでしょうか。

【川崎委員】

意見ということではないのですが、今実際に佐世保市が行っていることが、この共食と結び付けられるのかなと思います。自治協議会主体で、「地域コミュニティを密にしましょう」という立ち上げが行われていますよね。その中で自分の地域では、民生委員を中心とした民政部会と、私は健全育成会の委員で、地域での青少年部会を担当部署として担当しておりますが、そこにおいては食事の計画、食事指導、教室ですかね、自治協議会や地区公民館の活動として、みんなで食事を作って集まって食べるという活動をしている方もいらっしゃいます。あまり食に特化しているかわからないのですが、餅つきとか、学校を巻き込んで、地域で子どもたちと一緒にそういったものを食べるようにしております。日本の伝統文化である餅とか、そういったものを食べたことがない子供たちがかなりおりますので、そういう取組を、それぞれが意識を持たずに行っていたり、別の目的で行っているものを、食育に結び付けられないかなと思います。ひとり親世帯、貧困状況にある子供達が一番心配でもあります。地域での共食を行えないか。これに関してはプライバシーということで、個人情報を得ることは地域でも難しくあり、かなり限界を感じますが、子ども達はちゃんとごはん食べているのか心配でありながら、そういう話題が出ていても実際は動くことが難しい項目です。それと社会福祉協議会の取組みも交えまして、地域福祉政策というものが実施されていると思います。そこにおいてはサロンの実施みたいなことを地域で取り組み、食を月に1回程度提供している地域グループもあるように聞いております。そういったものをぜひ食と結び付けてバージョンアップできたらいいかなと思います。

【柴田会長】

国の基本計画ですが、県はこれに対してどのような考え方を持たれていますか？

【事務局】

県としましては、福祉的な要素が強いということで、「家族で一緒に食事をする」という目標は引き続き検討されていますが、こちらの共食の目標案は特に検討されておりません。

【柴田会長】

確かに社会福祉的な要素を強く感じます。食育と離れていくような感じもあります。他の方のご意見は何かありますか。

【井手委員】

老人会ができて月に1回公民館で会食を行っています。ここに出てくる方は社交性がある方です。一人住まいの方での参加者は少ないです。食事をしながらゲームをしたりという、楽しいひとときを月1回程度行っています。婦人部としては年に6回程度お年寄り達の食事サービスを行っています。配食サービスをすることによって、お顔見知りになって一人暮らしの方の安否の確認をしています。会食ではみなさん集まって食べられますが、来ると言って来られない方がいらっちゃって、どうしたのかなと行ってみたら、そこで倒れてなくなっておられた経験があります。具合が悪くて倒れて、家で寝込んでいたという方がいらっちゃいます。町内で何かする時に率先して来てくださる方は良いのですが、問題があるお子さんはお母さんが出さないです。来る方はどんな会でも参加されますが、必要だなという方は参加されません。

【柴田会長】

食育ということで見えていく時、地域で実施することに対して事務局から何かご意見はありませんか。

【事務局】

食事を楽しく食べていただくことは大切ですが、会長が言われるように食育とつなげることは難しいような気がします。

【柴田会長】

実際に食育の目標として挙げていくのは難しい感じがします。

時間も限られていますので、2番目の目標案^⑩食品ロス削減のために何らかの行動をしている国民の割合について議論したいと思います。現在、食品ロスは非常に問題になってきています。これに対して何かアクションを起こさないといけません。何かご意見はありませんか。

食品ロスの半数は家庭から出ているという報告があったようですが、アンケート結果では「賞味期限・消費期限を確認する」という項目があって、これは食品ロスに対する現状値を把握する項目にできるのではないかと思います。また、「食べ物の買いすぎや料理を作りすぎないようにする」という項目もありました。これもこの中に含まれるのかなと思います。どう持って行ったらよいか、何かご意見はありませんか

【野々村委員】

これも難しい問題だと思います。外食、中食を利用する人達が増えていますので、例えば弁当を買ったら全て食べるかというところではない時もあります。自分の適量以上の物を買わなければいけない時もあります。いろいろな状況が含まれており、外食と家で作る時と別に見立てなければいけないと思います。

何かの資料で見たのですが、高齢者が家庭で作る時はロスが多いということです。意外な気がすると思いますが、ある程度の年齢になってくると、家で食事を作りますが、ロスが多くなるそうです。若い人は買った物をそのまま食べるのでロスが少ないそうです。これを調査する場合、外食、中食、家で作る場合のロスと2本立てで見えていかないと無理があります。

【柴田会長】

外食と内食と分けて考えたほうが良いということですね。

【田中委員】

話が違うかもしれないのですが、家庭ではなくて外食のことなのですが、忘年会や新年会、宴会等食事がたくさん出ると思いますが、大体皆さん飲んでしまって、ほとんど食べられないですね。特に男性の方は食べられていないですね。とてももったいないですね。でも持って帰らせてはもらえないですね。どうにかならないでしょうか。内緒で持って帰ったこともあります。子どもの前で見せるのもよくないですし。

【野々村委員】

何かの資料で宴会の時等に出るロスはすごく多いということを見ました。

【田中委員】

何年前かは、東京などでドギーバッグというもの、持って帰るといのがあったと思うのですが。中華料理屋さんには持って帰らせてくれるのですが。

【柴田会長】

店によって違うと思います。食中毒のことがありますので、考え方によって違うと思います。

【川崎委員】

今の外食、宴会の時など私も思うのですが、お店によっては保健所の指導でと言われるのですが、ほとんど持ち帰りは無理と言われる。チェーン店やコンビニエンスストアは、有益なるロスというものがあるが、時間になったら廃棄処分するようになっていて、それがかなりの量のようです。パン屋さんも、一定時間になると廃棄処分になるようです。これらの物は、家庭から出る物と別に考えて、何らかの対処をしていかないと、そのところが手つかずのままになってしまうと思います。

【柴田会長】

ありがとうございました。コンビニなどで期限は来ていないのに処分してしまうということで、自

治体が介入しているニュースがありました。確か福岡だったと思います。

【井手委員】

スーパーによっては、例えば夜 8 時以降になったらお弁当が半額になるところがあります。以前私
が知っていたお年寄り、夕方くらいになったら外に出て行かれていて、なぜか尋ねると、スーパー
でお弁当が半額になるから買いに行くのだという人がいました。コンビニなどでも廃棄せずに、例え
ば 5 時から安くする等してはどうでしょうか。売れるのではないのでしょうか。捨てるより良いと思
います。

【川崎委員】

賞味期限や消費期限を確認して購入するのですが、大体期限が過ぎてしまいます。家族が多い時は
良いのですが、少なくなってくると、急な外食や会議等があったりすると、作るはずのものが残った
り、お中元やお歳暮シーズンも残りやすくなります。そういうものを集めて所得の低い人達や食事が
取れない人達に配布するというようなことを NPO がされていると聞いたことがあります。そういう
こともできないのでしょうか。食品ロス削減のために何らかの行動をしている国民の割合を増やすた
めに、個々の家庭で何ができるのか、家庭じゃないところで、コンビニ等で何ができるのか、有効な
食品を無駄なく消費するために何ができるのか、何本か立てて施策を考えないと、個人個人の家庭の
中だけでは限界があるのではと思います。

【柴田会長】

国が考えているのは、家庭から出る物が半分くらいということで、まず家庭から出る物がどうかと
いう風に考えていると思います。事業所というよりは、国民がどうしているかを考えなければいけな
いと思います。そのところはどうか。

【事務局】

資料 2-②を読みますと、国民一人ひとりの意識に関するところが強いのかなと思います。

【柴田会長】

ありがとうございます。他にご意見はございませんでしょうか。

また時間の関係で先に進ませていただきます。

3 番目の目標⑰地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法などを継承し、伝えている国民
の割合を増やすという項目で佐世保市の 3 次計画に何かやるべきことはないでしょうか。

アンケートでは「郷土料理などに関心を持っている」項目で 7.1%と、正しいお箸の持ち方ができ
る子どもの割合、この 2 つが当てはまるのではと思ったのですが、他に当てはまるものはありませ
んでしょうか。これも難しいと思いますが。

【川崎委員】

先生方がいらっしゃっているのです。学校給食の件で、本当は親が家庭ですべきことが食育に関して
は不足しているのではないのでしょうか。その点が、保育園、幼稚園、学校などの食事の時に、集団の

教育の場で担っているところが多いと感じております。その中で佐世保市の北部の方、江迎・鹿町地域の学校給食は、今もその地区は他の地区とは違う献立表があるようで注目しています。違う給食献立表では、3月は家庭で昔行っていたお祝いのお赤飯やお寿司などを盛り込んだ給食が出ていることを記憶しています。集団の中で難しいのかもしれませんが、もう親世代は、自分達の娘達が子供を育てており、和食が作れるかというところではありません。給食の利用も一つではないかと思えます。江迎地区がご飯ではなくて、郷土料理を食べさせる努力をしていることを記憶しております。

【前田委員】

中学校ですが、給食センターができて、全ての学校で給食を提供しているのですが、私が三川内にいた時は、以前の給食はいろいろな国の食を提供すればいいだろうというメニューでした。ですが、今の学校給食は研究されていて、どこの国の料理かな、今日はイタリアの考えたメニューだなと、変わりつつあります。お正月明けた時の給食は白玉雑煮にブリの煮物、なますなどお正月に食べたものが学校給食でも行事食として出ていました。長崎の「ひかど」など、佐世保では食することがないですが、長崎の卓袱料理的な要素の郷土料理が紹介され、市内の給食も郷土食や地域食が考えられた食事が提供されています。

【柴田会長】

ご意見ございませんでしょうか。

【岡委員】

私達は佐世保市食生活改善推進員として、各地で食のボランティア活動をしておりますが、年に1回程度中学校からの依頼で郷土料理を提供しております。子ども達もものすごく喜んで参加しています。学校で食べられないものをおばさん達作ってくださいと言っています。依頼があれば行っても良いと思います。

【柴田会長】

ありがとうございました。伝統料理に関して他にご意見はないですか。

【野々村委員】

食育基本法のところに伝承する力がなくなったとうたっています。共働きをすることで、伝統料理は時間がかかりますし、食材が地味です。高校生に、おばあちゃんの料理は昭和の味がすると言われたことがあります。高校生に向けての指導に対して、お弁当の中身を調べるとたまにきんぴらごぼうやひじきの文字があったのですが、冷凍食品ということでした。私も知らなかったのですが、その場に行ったらパックで売ってありました。今のお母さん方は忙しすぎて伝統的な料理を受け継ぐ機会がないように思います。栄養教諭も家庭ではできないので学校から発信しようという目的もあるのですが、地域や行事という意味合いであれば、歴史的な意味合いが深いです。「5月5日だから柏餅を食べましょう」ではなくて、なぜ柏餅を食べるのか。辿っていくととても面白い歴史にぶつかっていきます。学校で、歴史とあわせて自分達の地域を知ることは、地域を愛することになり、興味を持ってくれることとなります。ただ食事というだけでなく、昔の人はなぜこういう物を食べたのか、中国との関わ

りを見るといろいろなものが見えてきます。食を通して学んでいけば、伝統的な料理の理解も深まります。和食というのは噛みごたえのある食材が多いです。噛みごたえの回数がありましたが、和食離れが、噛むような食材が口元に届かないことになるのかと思います。地域の伝統的な料理はいろいろな形が出てきます。そういう伝統的な料理を自分ができなければ地域の長老の人達から聞くことが大切です。

【柴田会長】

ありがとうございました。それでは、議論も出尽くしましたので、本日の会議内容を集約いたします。本日の会議では、大きく2点について話し合いました。

1点目は、第2次佐世保市食育推進計画の評価のために昨年実施しました、「食育に関するアンケート調査」の結果について、特にこの2次計画の目標に関する箇所を中心に達成状況について、事務局から説明がありました。それを受け、委員の皆様から貴重な意見をいただきました。まず「朝食の欠食」について特にご意見がありました。欠食の理由としては、朝起きられない等の回答が多い結果となりました。夕食を食べた後、夜食を食べる人が多いという結果も出ておりました。食事バランスガイドの周知ができていない、認知度が減ってきているという意見をいただきました。

2点目は、28年度からの国の「第3次食育推進基本計画」、県の「第三次長崎県食育推進計画」について説明がありました。委員の皆様からはたくさん意見が出たのですが、1つめは地域のコミュニティを食育とどう結び付けていくか、実際いろいろなことを実施されている内容を教えていただきました。佐世保市の3次計画にどう持って行くか難しいところです。2つめは、食品ロスに関しても、いろいろな意見が出ました。外食と中食で分けたり、賞味・消費期限の確認、外食した場合持って帰れないかなど、いろいろな意見を出していただきました。3つめは食文化の継承です。1つは家庭で食文化を継承する力がなくなっているのではないか。それに対して学校でいろいろな取り組みをされていました。教育について深く考えられておられると感じました。学校教育でどのように取り組んでいけるか、日本の食はユネスコ文化遺産になっているが、和食を食べる人が少なくなっているのではないか、それをどうするか、というようなご意見をいただきました。委員の皆様のこのようなご意見を参考にして、佐世保市の3次計画策定へつなげて頂きたいと思います。

これで、本日の案件は、すべて終了いたしました。

皆様のご協力で、会議が滞りなく終了しましたことを感謝申し上げます。

膨大なアンケート調査の集計は、事務局はご苦労があったのではと思います。ご苦労様でした。それでは、事務局へ返します。

【事務局】

柴田会長ありがとうございました。次回の開催は、6月末から7月頃を予定しておりますが、会長と協議させていただき、委員の皆様には、改めて日程が決まり次第ご案内を差し上げたいと思っております。委員の皆様には長時間にわたりご審議いただきありがとうございました。これを持ちまして平成27年度第2回食育推進会議を閉会いたします。長時間お疲れ様でした。